

子どもたちの声を世界各国の指導者たちに呼びかける

「子どものための 2030 アジェンダ：暴力撤廃ソリューションズ・サミット」

2018 年 2 月 14-15 日

Bharti Mepani（子ども参加アドバイザー、セーブ・ザ・チルドレン UK）



宣言

私たちは、社会の対等な構成員としての子どもの声に耳を傾けてきました。
子どもたち自身の力、ビジョンや大人たちに対する要求が、
子どもの暴力撤廃への行動を促進してきました。
子どもたちも我々も、暴力を撤廃するための解決策があることを知っています。
それは達成可能であり、証拠に基づいており、
投資への効果が高いこともわかっています。
今、私たちは行動を起こさないわけにはいきません。

2015 年、世界のリーダー達は子どもに対する暴力が各地で蔓延していること、またその深刻さを認め、2030 年までに目標達成を目指す持続可能な開発目標（SDGs）の一環として、子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撤廃することを約束しました。第一回の「子どものための 2030 アジェンダ：暴力撤廃ソリューションズ・サミット」では、少年や少女に対する暴力を防止し対応するため、国連、市民社会、民間セクター、大学関係者、子どもたち自身がともに野心的な解決策を設計、共有しました。

メキシコ、パラグアイ、インドネシア、スリランカ、タンザニア、アフガニスタン、スウェーデン出身の 13 人の子どもたちと 3 人の若きリーダーたちは、子どもに対する暴力を終わらせるという共通の目標に向かい、力強い発信を行いました。タンザニアの Raphael さん（17 歳）は、「暴力がある世界で生きることは、本当の意味で生きているとは言えない」と宣言。また、スリランカ出身の Chamidu さん（13 歳）は「体罰が、私たちと教師や大人との関係を壊しています。それは本当に悲しいことですし、怒りを感じます。そのような関係には価値がないと感じます。」と述べました。さらに、スリランカの Sewmini さん（16 歳）と、インドネシアの Monica さん（15 歳）は、「子どもたちが暴力に対して抗議できること、子どもの権利を保護するために働きかけられることを学びました」、「子どもに対する暴力をなくすこと、そしてこの問題を解決するために必要な知識を学びました」とそれぞれ発言しました。そして、タンザニアの Yusra さん（17 歳）は、「暴力を終わらせるという共通の目的を持って、政府、子ども、社会の人々との関係を改善すること」の重要性を強調しました。



パラグアイの Leticia さん（15 歳）は、「暴力が起きているサイクルを絶たなければいけない」と訴え、メキシコの Gilberto さん（17 歳）は、「私は（この会議に）夢を抱いて参加し、多くの経験をすることができました。様々な国が暴力撤廃のためのメンバーになったことにとても満足しています。今、子どもに対する暴力を終わらせるという目標に近づいていることを実感しています」と述べました。Zabi さん（18 歳、スウェーデン/アフガニスタン）は、「子どもに対する暴力を終わらせる活動をもっと進めていきたい」という意欲を、そして Faiz さん（18 歳、スウェーデン/アフガニスタン）も、「私には子どもたちがより良い未来を生きるための計画があります」と未来に向けた発言を行いました。メキシコの Alejandro さん（14 歳）は、「今日、私たちは次のステップに向けた一歩を踏み出しました。私たちは、指導者に対し本当に大きなインパクトを与えられたと思います」と述べました。最後に Raphael さん（17 歳、タンザニア）は、「子どもに対する暴力の問題が、大人を含むすべての人たちの間で扱われるべき課題であることに驚きました。この学びは、子どもに対する暴力がゼロの世界を目指すことは可能であるという勇気と信念を、改めて与えてくれます」と述べました。

「子どもに対する暴力は不当なものです。」

子どもに対するすべての暴力は防ぐことができます。」

国連事務総長の見解（2006）

さらに詳しい情報は下記のサイトをご確認ください：End Violence

<http://www.end-violence.org/summit>

